

国民健康保険のいまとこれから

— みんなで守る“安心”の仕組み —

国民健康保険は、加入者が国民健康保険税を出し合い、病気やけがをしたときの医療費に充てる社会保障制度の一つです。

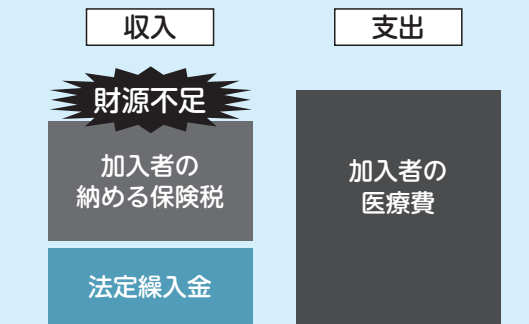
— 財政の仕組み（概要） —

加入者が納付した保険税や国・県からの交付金を元に、加入者の医療費を支出しています。

これまでは、保険税負担をなるべく増やさないように、一般会計繰入金や基金を活用して調整してきました。その結果、保険税水準としては県内でも低く抑えることができています。

ただ、**加入者減少による保険税収入の減少や医療費の増加**が影響して、伯耆町の国民健康保険の財政状況は非常に厳しくなっています。

今後については、財政の安定化や制度の持続可能性確保に向けた取組の検討が必要となってきています。

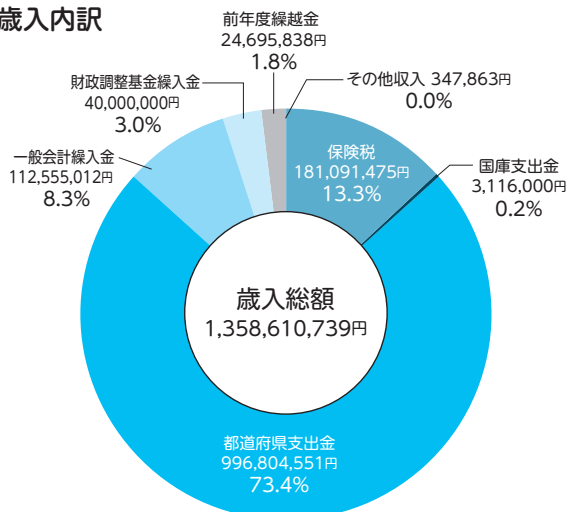


※図はイメージです

実際には、加入者が納める保険税や一般会計繰入金を財源とした納付金を県に支払い、県から町に支払われる交付金を財源に医療費を負担しています。

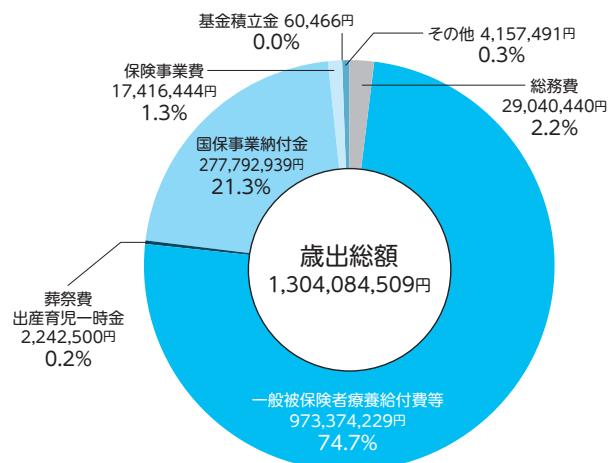
1 令和6年度 財政状況

歳入内訳



- 歳入のうち、73.4%を県支出金、13.3%を保険税が占めています。
- 被保険者数の減少等により、収納額は全体で前年度比約250万円減少しています。
- 一般会計繰入金は1億1,256万円で、法定内9,798万円、法定外1,458万円となっています。

歳出内訳



- 歳出のうち、74.7%を療養給付費等の医療費、21.3%を県に支払う納付金占めています。
- 令和5年度と比較して、被保険者数は減少していますが、療養給付費と高額療養費が増額しています。

2 伯耆町国民健康保険財政調整基金の状況

(単位：円)

令和6年度は、財源不足により基金を4千万円取崩し、特別会計に充当しました。

	積立金	取崩額	決算額
令和2年	12,601	15,000,000	113,233,764
令和3年	15,013,630	0	128,247,394
令和4年	3,395	20,000,000	108,250,789
令和5年	20,003,695	0	128,254,484
令和6年	60,466	40,000,000	88,314,950

3 伯耆町国民健康保険の状況

①被保険者数

後期高齢者医療への移行や社会保険の適用拡大に伴い、被保険者数は年々減少しています。

※各年の4月1日時点 ※単位：人

R2	R3	R4	R5	R6
2,635	2,635	2,413	2,291	2,195

②一人あたりの保険税額

減少傾向にありましたが、令和6年度は所得割の影響で増え、県内19市町村のなかで14番目となっています。

※単位：円

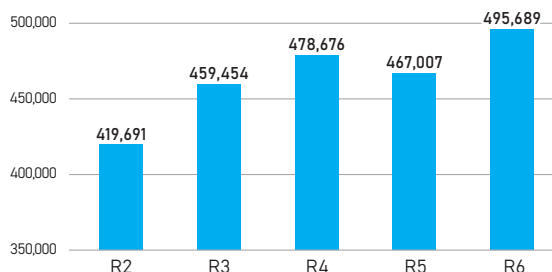
R2	R3	R4	R5	R6
77,634	77,663	77,016	76,644	79,058

③一人あたりの医療費（年間）

医療の高度化等の影響により、年々増加しています。令和6年度は、県内19市町村のなかで9番目であり、おおよそ真ん中あたりを推移しています。

1人あたり医療費の推移（年間）

※単位：円



まとめ

上記の結果から、年々被保険者数は減少し、一人あたりの医療費や保険税額は増加傾向であることがわかります。

今後も高齢化や医療技術の高度化により、医療費は増加すると見込まれています。

国民健康保険の財政運営が難しくなると、安心して医療を受けることが困難になるおそれがあります。これからも安心して医療制度を守るために、医療費の適正化や健康づくりへの取り組みを一人ひとりが進めていくことが大切です。

みなさんご協力ください！

休日や夜間の受診は避けましょう

休日や夜間の受診は、割増料金がかかるなど医療費の増加につながります。平日の診療時間内に受診することができないか、もう一度考えてみましょう。

薬のもらいすぎに注意しましょう

「お薬手帳」を活用し、処方されている薬を医師や薬剤師に伝え、薬の重複や飲み合わせを確認してもらいましょう。

ジェネリック医薬品を上手に利用しましょう

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、新薬（先発医薬品）と同じ効能のある処方薬で、特に継続的に薬を服用している人は薬代を減らす効果が期待できますので、医師や薬剤師に相談してみましょう。

定期的に健診を受けましょう

特定健診や人間ドックなどを毎年定期的に受けて、自分の健康状態を把握することで、疾病などの早期発見・早期治療に努め、健康管理を心がけましょう。

医療費抑制のため

こんな取り組みをしています！

特定健診や人間ドック、脳ドックの実施

40歳以上の人に特定健診、36歳以上で偶数年齢の人に人間ドック、56歳以上で偶数年齢の人に脳ドックを実施。特定健診の受診率は、県内でも高い水準を維持し、令和6年度に初めて50%を超えました。

フィットネス体験事業

健康増進の取組として町内にフィットネス事業を展開し、20歳以上の町民を対象にみぞくちテラソで無料体験を実施。運動を通じて、健康づくり、介護予防、免疫力アップなどを目指します。

集落健康運動教室「まめまめクラブ」

各集落の公民館を会場に、保健師・健康運動アドバイザー等によるストレッチや運動プログラムを実施。高齢者の生活機能維持、介護予防を視野に入れた取組を行っています。

病気の早期発見や健康維持は、治療にかかる費用が減り、病院に通う期間も短くなります。将来的に医療費負担の削減につながります。

